

November 2, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル 1.1640ドルまで下落、トルコリラ史上最安値 8.3849 リラ、12.45 円

30日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは5日続落。終値は1.1647ドルと前営業日NY終値(1.1674ドル)と比べて0.0027ドル程度のユーロ安水準。豪ドルなど対資源通貨中心にドル売りが出た影響で、ユーロに対してもドル売りが先行。市場では「月末のユーロ買いのフローが散見された」との声も聞かれ、1.1704ドルと日通し高値を付けた。そのあとはロンドン16時(日本時間1時)のフィキシングに向けた持ち高調整のユーロ売り・ドル買いが優勢に。ダウ平均が一時500ドル超下落したこともリスク・オフのドル買いを促し、1.1640ドルと9月28日以来約1カ月ぶりの安値を更新した。

欧州で新型コロナウイルス感染が再拡大していることも引き続きユーロの重し。イタリアでは日別の新型コロナウイルス感染者が3万1000人を超えて過去最多を記録したほか、フランスでは新型コロナによる死者数が545人増と4月20日以降最多となった。

ドル円は小幅ながら続伸。終値は104.66円と前営業日NY終値(104.61円)と比べて5銭程度のドル高水準。アジア時間に104.00円の下抜けに失敗したことで海外市場ではショートカバーが優勢に。資源国通貨に対してドル売りが出ると、相場は伸び悩む場面があったが、米国株相場下落に伴うリスク・オフのドル買いが強まると前日高値104.73円を上抜けて104.74円まで値を上げた。米10年債利回りが0.87%台まで上昇したことも相場の支援材料。

ロンドン・フィキシングにかけては「米大統領選を来週11月3日に控えるなか、ポジション調整の売りが交錯した」ことでやや荒い値動きとなったものの、フィキシングを通過すると商いが細った。

ユーロ円は5日続落。終値は121.93円と前営業日NY終値(122.12円)と比べて19銭程度のユーロ安水準。ユーロドルが日通し高値を付けたタイミングで122.46円と本日高値を付けたものの、ユーロドルが失速するとユーロ円にも売りが出て121.69円付近まで押し戻された。

トルコリラは対ドルで一時8.3849リラ、対円で12.45円と史上最安値を更新した。トルコとギリシャの間のエーゲ海を震源とするマグニチュード7.0の地震が起き、津波が発生。トルコ災害緊急事態対策庁は現在までのところ17人が死亡し、700人以上が負傷したと明らかにした。エーゲ海沿いのトルコ第3の都市イズミルでは集合住宅など多くの建物が倒壊し、一部地区では浸水の被害も出た。最大都市イスタンブールでも大きな揺れが確認されており、同国経済への地震の影響が懸念される。

【本日の東京為替見通し】明日の米大統領選挙の投開票控えて動意に乏しい展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、明日の米大統領・上下両院議員選挙の投開票控えて動意に乏しい展開が予想される。

米大統領選挙では、10月30日までに8500万の期日前投票があり、うち5500万が郵便投票だと報じられている。米大統領選を巡る経済的なアノマリーは、バイデン第46代米大統領の誕生を示唆している。

10月末のS&P500終値が、7月末の終値を上回れば、現職大統領、あるいは与党候補が勝利、下回れば敗北するというアノマリーがあるが、今年のS&P500は、10月末の終値が3269.96となり、7月末の終値3,271.12を1.16ポイント下回ったことで、トランプ第45代米大統領が敗北し、バイデン第46代米大統領が誕生する可能性が高まっている。

米大統領選挙の直前に、失業率が0.5%以上上昇した場合、現職大統領、与党候補が敗北するというアノマリーがあるが、今年は、新型コロナウイルス感染を受けて失業率は上昇しているので、トランプ米大統領の敗北の可能性が示唆されている。

また、リセッション(景気後退)の時の現職大統領は敗北する傾向にあり、今年の米経済はリセッションに陥っていることで、トランプ米大統領の敗北の可能性が示唆されている。

9時30分に発表される9月豪住宅建設許可件数の予想は前月比+1.5%と見込まれている。ネガティブサプライズならば、明日の豪準備銀行(RBA)理事会での利上げ観測を高めることになる。

10時45分に発表される10月Caixin中国製造業購買担当者景気指数(PMI)の予想は52.8で、9月の53.0からの悪化が見込まれている。10月31日に発表された10月製造業購買担当者景気指数(PMI)は51.4となり、9月の51.5から0.1ポイント低下して、2カ月ぶりに悪化したが、拡大・縮小の節目となる50を8カ月連続で上回っている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 09:30 ◎ 9月豪住宅建設許可件数（予想：前月比1.5%）
- 10:45 ◎ 10月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：52.8）
- 16:00 ◇ 10月トルコ製造業PMI
- 17:30 ◇ 10月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：53.5）
- 17:50 ◎ 10月仏製造業PMI改定値（予想：51.0）
- 17:55 ◎ 10月独製造業PMI改定値（予想：58.0）
- 18:00 ◎ 10月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：54.4）
- 18:30 ◎ 10月英製造業PMI改定値（予想：53.3）
- 21:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 23:00 ◎ メルシュ欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 23:45 ◎ 10月米製造業PMI改定値（予想：53.3）
- 24:00 ☆ 10月米ISM製造業景気指数（予想：55.8）
- 24:00 ◇ 9月米建設支出（予想：前月比0.9%）
- ブラジル、メキシコ（万聖節）、休場
- 米国は1日から冬時間に移行済み

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

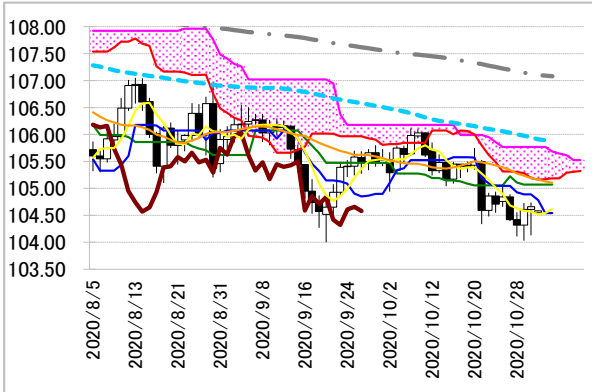
【前日までの要人発言】

30日 16:41 ホルツマン・オーストリア中銀総裁
「ラガルド ECB 総裁が追加緩和示唆との認識は正しい」
「追加緩和策は、今後のデータ次第」

30日 19:56 メルシュ ECB 理事
「新型コロナウイルス感染第2波に対して、ECBの役割を果たす」
「緩和措置の柔軟性を議論する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

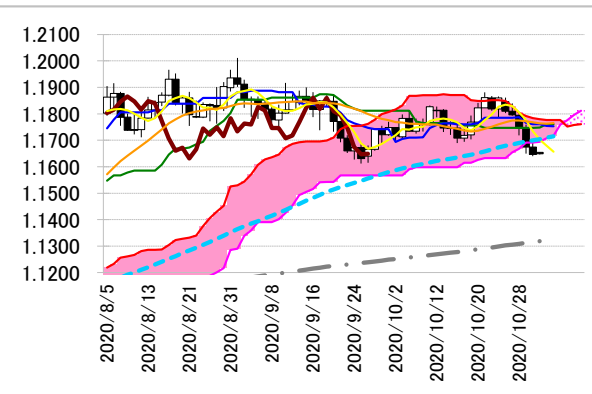


<ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	105.07(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	104.66
サポート1	104.00(9/21 安値)
サポート2	103.09(3/12 安値)

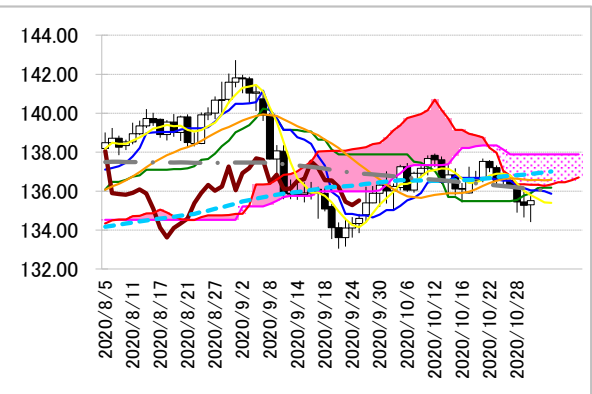


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、5手連続陰線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1761(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1647
サポート1	1.1612(9/25 安値)

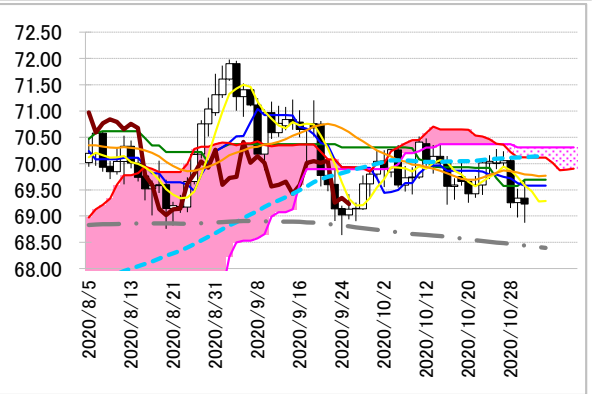


<ポンド円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	136.04(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	135.52
サポート1	134.41(10/30 安値)



<NZドル円＝雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	70.11(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	69.23
サポート1	68.64(9/24 安値)

